

「まる字」についての研究

39期生

I テーマ設定の理由

最近、若い人の間で、「まる字」を書く人が増えていて、このことが社会で問題になっています。例えば、会社の書類やテスト、目上の人への手紙など、大切なものにまで、記号のような字を書く人がいます。

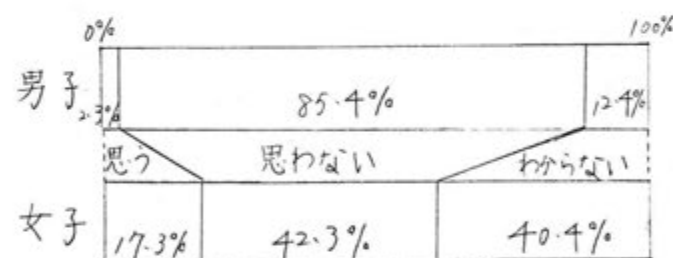
なぜ、「まる字」が増えてきたのか、また、まる字を書く人が増えてきたのか、その原因を調べてみようと思いました。

II 研究方法

- (1) 附中39期生に、アンケート調査をする。
 - 1) 実際に、いくつか字を書いてもらい、まる字の割合を調べる。
 - 2) まる字についての感想
 - 3) まる字の増えてきた原因
- (2) 参考文献を読み、まる字の実態をみる
- (3) まる字の原因を、調べる

III 研究内容

- (1) アンケート調査
 - 1) 39期生におけるまる字の割合(自分でまる字だと思っている人の割合)



- 39期生の中では、自分の字が「まる字」だと思っている人は、男子が2.3%、女子が17.3%で、特に男子が少ない。
- 男子で、自分の字が「まる字」だと思っていない人が85.4%で、非常に多い。

2) 「まる字」について、どう思うか(主な意見)

〔男子〕	〔女子〕
賛成派…	賛成派…
○見やすい	○かわいい
○かまわない	○別にいい
○別にいい	○おもしろい
○個人的でよい	○女の子らしい
○日本の文化である	○読みやすい
反対派…	反対派…
○社会にでてから困る	○きたない
○字ではない	○いいと思わない
○読みにくい	○読みづらい
○バカみたい	○書きづらい
○まんがのようだ	○実用的でない
○日本の文化をこわす	○見にくい
	○社会に通用しない
	○これから先、困る
	○テストの時など困る
	○自分だけの字
	○時間がかかる
	○かっこ悪い

(結果より、わかること)

- 人によって、「まる字」に対して、感じ方がちがう。(読みづらいという人もいれば、読みやすいという人もいます。)
- 女子の方が、日ごろ、「まる字」をよく見ているのか、男子よりも「まる字」に対して、関心があるようだ。
- 全体的にみて、あまり「まる字」は、よく思われていないようだ。

3) なぜ「まる字」が、増えてきたか

〔男子〕	〔女子〕
○流行だから	○自分の個性を生かしたい
○マンガの影響	○ファッションの影響
○自分の字を、かくすため	○キャラクター商品の影響
○早く書けるから	○きちんとした字が書けない
○ブリッコしたいから	○かきやすいから
○省略できるから	○早く書けるから
○ファッションの影響	○文具(シャーペン)の影響

「まる字」のでてきた原因を、「キャラクター商品」「活字」「文具」にしぼって、研究を続けることにしました。

(2) 「まる字」の原因

<キャラクター商品>

キャラクター商品は、大部分がサンリオから出ている製品である。他に、コクヨなどの会社からも出ている。

(ノート)

- 端の方に絵が書いてあるものや、うすくノート一面に、絵が書いてあるものがある。
- 色は、わりと派手なものから、地味なものまで、さまざま。
- 絵がなくて、まる字が書いてあるものもある。

(便せんや、メモ帳)

- いろんな、図柄がある。
- 伝言板式のものや、手紙を書くのに専用のものまである。
- まる字が使われているものも少なくない。

[考察]

- キャラクター商品は、女の子から見ると「かわいい」ものが多いので、字も合わせて、まるく書くのだろう。
- ノートの値段は、100円から120円と、買いやすいので、どうせ買うのなら、かわいい物の方がいいという女の子の気持ちから、かわいいノートを使い、かわいく書いてしまうのだろう。
- 友達に手紙を書いたりする時は、友達口調で書いてしまうので、まる字になってしまうのだろう。

<活字>

活字には次の3つがあります。



(石井中明朝体) (モリサワ太丸ゴシック体) (ナールM)

活字のまる字である「ナールM」の推移を、ある雑誌で調べてみると、

昭和47年	1.4%
48年	11.3%
49年	22.8%
50年	27.9%

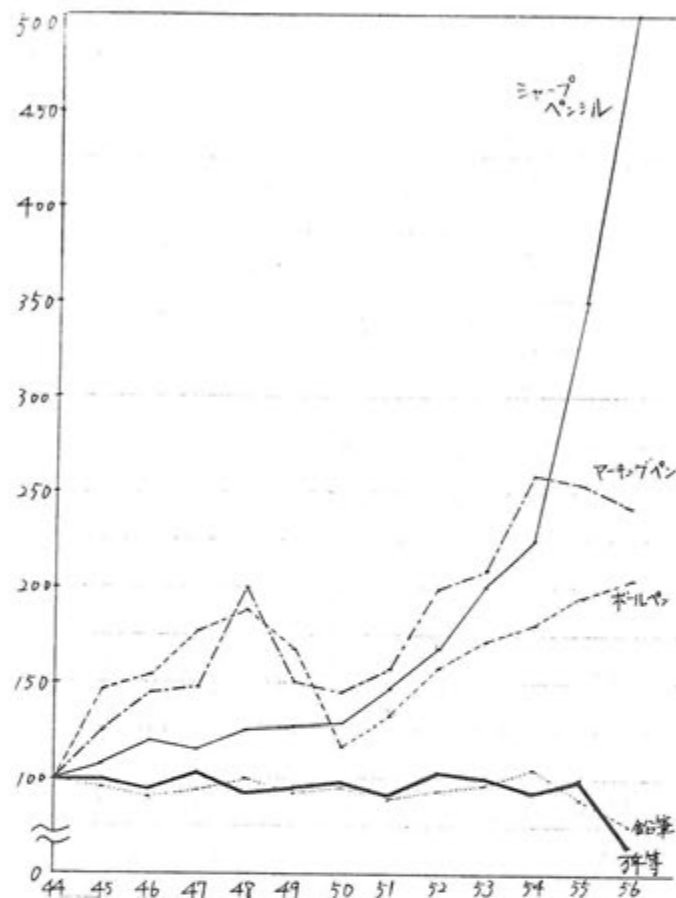
(結果)

- 年々、ナールの使用率が増えているということは、まる字を使う人が、増えてきているのだと思う。
- モリサワ太丸ゴシック体も、まる字に近い字なので、これらの活字は、まる字が増えてきた原因といえる。

※ナール…命名の由来は「Nakamura」の「Na」と「round(丸い)」の「r」を合成した「Nar」から、きている。「中村」というのは、活字のまる字を発明した人です。

<文具>

筆記具の国内販売本数推移(昭和44年を100とする)



[グラフより、わかること]

- 鉛筆や、万年筆の売り上げは、昭和51年ごろまではのびているが、だんだん減ってきている。
- シャープペンシルの売り上げは、昭和51年ごろまではのびていないが、その後、急激にのびている。

[考察]

- まる字がでてきた昭和49年と、シャープペンシルの売り上げが増えてきた時期が一致している。
- まる字が、急激に普及し始めた昭和53年と、シャープペンシルが、急激に売れた時期が、一致している。

以上の結果より、まる字を書く人が増えてきた原因として、キャラクター商品、活字、シャープペンシルの普及が考えられると、思います。

(3) まる字の五十音

あ	い	う	え	お	か
き	し	け	こ	さ	し
す	せ	せ	た	ち	つ
と	な	に	ぬ	ね	の
ひ	ひ	ふ	へ	ほ	
ま	み	む	め	も	や
ゆ	よ	り	る	れ	
ろ	わ	を	ん	ん	ん
ろ(6)	ろ(7)	ろ(8)	ろ(9)	ろ(10)	ろ(11)
ろ	ろ	ろ	ろ	ろ	ろ
ろ	ろ	ろ	ろ	ろ	ろ

上の表を特徴別に分けてみました。

- ① 線の交差の仕方がおかしい
うあかとはほまめりよれ
- ② 典型が「か」で右線が横になり、交差している
か
- ③ 線の先のはねや点の延びや、方向がおかしい
いしけこたにひりり
- ④ むすびが強調され、大きな円を作っている
ぬほほまるお

⑤ 基本型を完全に、逸脱した文字も多く生まれている

えせたおおひやれわ

⑥ 濁点の位置が、おかしい

かごじだまどほ

⑦ 漢字にも不可解な変形がある

今(今)気(気)会(会)は(は)定(定)成(成)

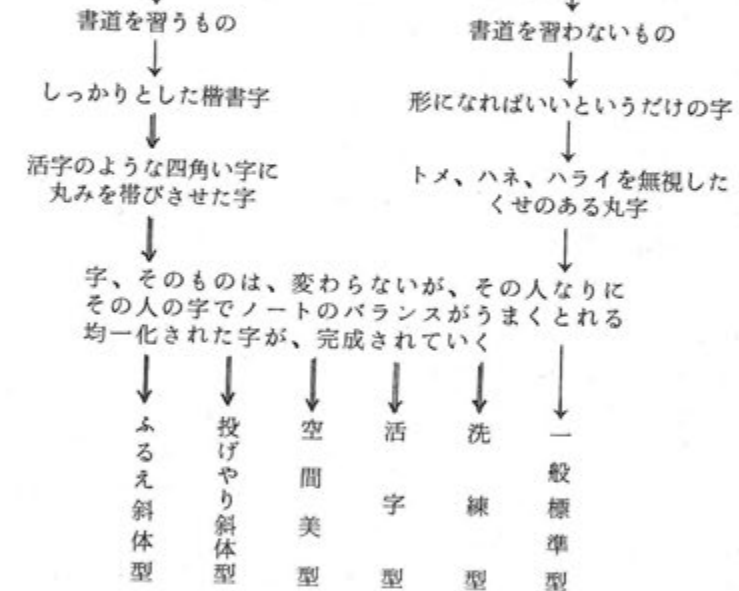
⑧ 数字にも不可解な変形がある

ろろろろろ

⑨ 句点や読点、記号の図形化が広く進んでいる

ろろろろろ

楷書練習字
(小学年低学年)



まる字の流派

- 洗練型 …… 最も優れており、楷書での字の大きさや、バランスなどをくずさず、読みやすさを徹底したまる字である。
- 活字型 …… 楷書を原型にしているが、点、ハネ、ハライなどの勢いは抑えられて、一定の強さである。
字の横線のそろいは、一定していて、活字のような字配りがなされている。
読みやすい。
- 空間美型 …… 丸み、ハネ、ソリなど、文字の特徴をあえて避ける書き方をする。

そのため文字は、大きめだが空間がはなれているため、空間が目立つ。

- 投げやり斜体型 … 長体をかけたように、右上り、あるいは、左上がりになっている文字。一字一字の完成度は低いが、筆記速度を重視すると、この字になる。英語で筆記体を習った直後に出ることもある。また、非習字派の典型的なまる字を書く者が、速く書くことのみを目ざすと、投げやり斜体型へ移行する傾向にある。
- ふるえ斜体型 … 右上がりの傾斜は、鉛筆の持ち方に原因がある。力が、かかりすぎて勢いのない字になっている。ゆっくりと斜めに書くのでふるえていることが多い。

ふるえ斜体型のところ「鉛筆の持ち方に原因」とあるので、少しふれてみます。

(筆記具の角度と、書き文字の関係)

まる字を書いている人の握り角度は74度～75度で、他の筆記者の60度と比べ、より垂直に近い。これは、まる字を書いている人が、シャープペンシルを使うと、芯が折れないように垂直に立ててシャープペンシルを握りこんでいるためである。垂直に近い状態で持つと、筆圧が高くなるため、指先の動きが固定される。これで書く(特に横書き)トメ、ハネがでにくくなり、手先の動きで書いているのではなく、腕の動きで書いていくので、いきおい単純な回転運動に沿って文字を書くことになる。また、姿勢も悪くなってしまう。これが「まる字」を書くことによって起こったことです。

[まる字に対して、会社、企業は、どのように思っているか]

- まる字は会社の中では、まずい。まずいということは、女の子達もわかっているようだ。もし仕事上で使っていたら直させる。
- 10年前に比べると、文字は下手だし文章は書けない。まる字が目立ってきたのは、ここ3年くらいのこと。新人研修で書かせる文の二割は、まる字。まる字に限らず、履歴書では、文字をきびしく見る。
- 入社すると、すぐ研修レポートを書かせ、「自由な表現を使って書くように」と指導すると、自由をはきちがえて、友達口調で書いたり、ハートマークを入れたりする。まる字を書かれると、いったいまじめに書いているのかという疑問がわく。取り組みが、いい加減に感じられる。
- 会社というのは、いろんな年齢層の人がいるから、お年寄りが見ても、だれが見ても、きれいな字でなければならない。
- 個人的には、かまわないが、会社の中ではよくない。

以上の意見より、会社、企業は「まる字」に対して、きびしいことがわかります。そこで私たちは、まる字を書いている人は、不採用ということもあるのではないかと、考察を

たて調べました。

(結果)

文字は採用時に評価基準になるか

な る —— 39.5%

ならない —— 60.5%

私達の考察は、はずれ、「ならない」という会社が、50%以上というのに、とても驚きました。たぶん最近では、ワープロなどで書類などを作成されることが多くなり、あまり書く字に、こだわらなくなっているのではないかと思います。

IV 結論

「まる字」というのは、文字というよりもデザインだと思います。だから、字のうまい人や、デザインすることが好きな人にしか「まる字」は書けないと思います。やはり「まる字」は友達に手紙を書く時など、遊びの時はいいですが、社会にでてから通用する字ではないので、会社内やテストの時など正式の場では、使う字ではないと思います。今まで研究してきて、一つ気になったことは、明治33年に、万葉がなから今の五十音表に変わってきたということは、「まる字」も何十年かすれば、だれもが書く字になっていくのではないかと思います。

V 反省、感想

共同研究というのは、二人いるのだから、すぐできると思っていても、二人のスケジュールがなかなか合わず、夏休みの最後になっておいこみました。だから、一つのことについて、深く研究することができなかったのが反省です。感想は、「まる字」について、いろいろな疑問があったので、課題としては、わりとやりやすかったです。「まる字」がでてきた原因としては「キャラクター商品」「活字」「シャープペンシル」「筆記具のにぎり方」の他、もっと原因があると思うので、また機会があれば、調べてみたいと思っています。

—— 参考文献 ——

- 変体少女文字の研究 講談社 山根一真
- 国語便覧